

目次	CEOメッセージ	CSOメッセージ	カーボンニュートラル/ 新型コロナウイルスへの対応	取締役会議長 メッセージ	日産のサステナビリティ	日産のSDGsへの貢献	ルノー・日産自動車・ 三菱自動車のアライアンス
環境	社会性	ガバナンス	ESGデータ集	編集方針	TCFD対照表	GRI内容索引	投資家向け索引

イノベーションを通じて 地球環境と社会に貢献する

社会の一員として気候変動に代表される地球環境と社会課題に取り組むことは、これまでも、これからも日産のパーパスの中核を成しています。日産の製品や技術は人々の生活を豊かにし、モビリティや輸送におけるイノベーションを実現することで、グローバルな課題解決に重要な役割を果たしてきました。革新とチャレンジを追求する企業風土は、環境問題、交通安全、スマートシティの構築などさまざまな分野に生かされています。カーボンニュートラルの実現に向けた思いや、どのような社会価値を提供していきたいのかを、代表執行役社長兼最高経営責任者の内田誠が語りました。

日産自動車株式会社 取締役
代表執行役社長兼最高経営責任者

内田誠



目次	CEOメッセージ	CSOメッセージ	カーボンニュートラル/ 新型コロナウイルスへの対応	取締役会議長 メッセージ	日産のサステナビリティ	日産のSDGsへの貢献	ルノー・日産自動車・ 三菱自動車のアライアンス
環境	社会性	ガバナンス	ESGデータ集	編集方針	TCFD対照表	GRI内容索引	投資家向け索引

カーボンニュートラル実現に向けて果敢に取り組む

Q. 今年1月に2050年までにクルマのライフサイクルを通じてカーボンニュートラルを実現する新たな目標を発表しました。目標達成に向けての戦略を教えてください。

カーボンニュートラルを実現するためには、自動車メーカーだけで単独で取り組むのではなく、政府と企業が一体となって、クルマのライフサイクルマネジメント全体で取り組む必要があります。一方で、自動車メーカーが担う役割は非常に重要です。日産が、2030早期よりに主要市場に投入する新型車をすべて電動車両として提供し、2050年までに事業活動を含むクルマのライフサイクル全体におけるカーボンニュートラルを実現すると宣言したのは、そのためです。

昨今、各国がカーボンニュートラルを実現することを宣言していますが、日産は約20年にわたり「ニッサン・グリーンプログラム」を推進し、環境課題に取り組んできました。10年前に電気自動車（EV）の量販を開始した当時は、まだEVに懐疑的な見方もありました。しかし、日産はこうした見方に果敢に立ち向かい、「EVリーダーシップ」の目標を掲げ、お客さまにいかに価値を提供するかということに焦点を置いて、EVの拡販を通じた環境保全に取り組んできました。すでに50万台以上のEVを販売しており、こうした取り組みは、まさに「他がやらぬことを、やる」という日産のDNAを体現していると思います。



カーボンニュートラルの実現には、電動化を始めとするさまざまな技術の積み重ねが必要です。同時に、EVの魅力をもっとお客さまに伝え、理解していただくことも大事です。お客さまがこれから何を求めているかを把握した上で、そのニーズに合致する価値を提供し、地球環境への貢献と市場のバランスをとる必要があります。事業構造改革「NISSAN NEXT」に従って、市場の変化に対応するために技術革新への投資を続けていきます。

目次	CEOメッセージ	CSOメッセージ	カーボンニュートラル/ 新型コロナウイルスへの対応	取締役会議長 メッセージ	日産のサステナビリティ	日産のSDGsへの貢献	ルノー・日産自動車・ 三菱自動車のアライアンス
環境	社会性	ガバナンス	ESGデータ集	編集方針	TCFD対照表	GRI内容索引	投資家向け索引

また、これまで日産が地道に積み重ねてきた資源に対する取り組みも、ライフサイクルでカーボンニュートラルを実現するためには不可欠なものです。

日産はフォーアールエナジー株式会社を通じて、EV用バッテリーの二次利用も進めています。回収したバッテリーを、独自の技術によって再度EV用バッテリーとしてリユースすることにより、バッテリー製造段階のCO₂排出量を削減できます。また、EV用のバッテリーとしての役割を終えた後も、日産の高性能リチウムイオンバッテリーは、さまざまな用途や場面で長期にわたり再利用できます。フォーアールエナジーは、JR東日本様と協働し、鉄道の踏切保安装置の電源に

EVの使用済みバッテリーを採用し、試行導入しています。EV用バッテリーの二次利用を拡げることにより、資源の有効活用がより一層進み、環境負荷低減にも確実に繋がります。

資源に対する取り組みに加え、EVを活用し、地域の課題解決を図る「ブルー・スイッチ」活動は、災害時の電力供給など電動化を通じたソリューションの提供を行っています。2018年の開始以来、自治体との連携協定は、すでに130件を超えており、電動化の推進に貢献しています。

お客さまに欲しいと欲していたただける電動車両を提供する

Q. お客さまのニーズに応えるとお話がありましたが、ニーズ自体はどのように変化しているのでしょうか？

日本におけるエコバックの普及は良い例だと思いますが、お客さまの環境意識の変化を強く感じています。特に最近の若い世代では、クルマを環境性能で選ぶお客さまが増えており、日産のこれまでの取り組みを理解いただける機会がさらに広がっています。今後もエネルギーマネジメントを含むEVエコシステムなど、総合的なEVの価値を、お客さまにしっかりと発信していきます。

一方で、市場によって環境への施策や電動化のスピードも異なりますが、一番

のカギはお客さまに電動車両を欲しいと欲していたただけるかどうかです。どの市場でも、クルマの購入費用、維持費用含めたトータルのコスト(TCO:総保有コスト)が理にかなわないとお客さまにご購入いただけません。市場ごとにお客さまのニーズに合わせた電動化戦略が必要ですし、事業とのバランスが重要です。そのためにも、アライアンスのスケールメリットを生かし、コスト競争力の高い電動車両の実現にチャレンジしていきます。

目次	CEOメッセージ	CSOメッセージ	カーボンニュートラル/ 新型コロナウイルスへの対応	取締役会議長 メッセージ	日産のサステナビリティ	日産のSDGsへの貢献	ルノー・日産自動車・ 三菱自動車のアライアンス
環境	社会性	ガバナンス	ESGデータ集	編集方針	TCFD対照表	GRI内容索引	投資家向け索引

SDGsで活動を評価し、PDCAを回す

Q. 昨今、政府や自治体だけでなく、企業によるSDGsへの貢献についても期待が高まっていますが、日産はSDGsをどのように捉えていますか？



SDGsは、すべての人々にとってより良い世界を築いていくための目標であり、政府と社会と企業とが連携して取り組むべき課題です。

日産のサステナビリティ戦略は持続可能な社会の実現を目指しており、これまでもSDGsの視点から企業活動を行ってきました。企業の価値や存在意義を考える上で、SDGsは大変重要なガイドラインです。これまでの活動をSDGsに照らして評価することで、不足している点や強化が必要な点を把握し、これからの方向性を検証することができます。自己評価を繰り返し、PDCAを回していくことで、おのずとSDGsの取り組みを実行し続ける会社になっていくと思います。日産は、他社に先駆けて2004年から「国連グローバル・コンパクト」に参加していますが、そこに掲げられた普遍的な原則を引き続き遵守し、SDGsの目標達成に積極的に貢献していきたいと考えています。

「人々の生活を豊かに。イノベーションをドライブし続ける。」という日産のコーポレートパーパスは、日産の存在意義や社会に果たす役割を表しています。日産がどこに向っているのか、日産の存在意義とは何かを示すことで、従業員に自分の仕事が将来、何のためになるのか、お客さまにどんな価値を提供するのを感じてほしいと思っています。一人ひとりがそれを感じることで、会社が元気になる、日産のサステナビリティにつながり、SDGsへの貢献につながると考えています。

目次	CEOメッセージ	CSOメッセージ	カーボンニュートラル/ 新型コロナウイルスへの対応	取締役会議長 メッセージ	日産のサステナビリティ	日産のSDGsへの貢献	ルノー・日産自動車・ 三菱自動車のアライアンス
環境	社会性	ガバナンス	ESGデータ集	編集方針	TCFD対照表	GRI内容索引	投資家向け索引

サプライチェーンも含めて人権課題に取り組む

Q. 人権に対する取り組みについても、企業への要請が年々増加しているようですが、日産ではどのように対応していますか？

日産は、グローバル市場におけるサプライチェーンの各段階において、倫理面、社会面かつ環境面に配慮した事業活動を目指しています。

「日産の人権尊重に関する基本方針」に基づき、いかなる人権侵害も容認せず関連する顕在的・潜在的リスクを未然に防ぐため、さまざまな戦略・取り組みを実践しています。例えば、2013年にはいち早く紛争鉱物調達への取り組み方針を策定し、2020年7月には「グローバル鉱物調達に関する方針」を公表するなど、従業員の労働環境を守り、すべてのステークホルダーの人権を尊重するための方針やガイドラインを整えています。サプライヤーとともに人権侵害の調査を行い、万が一、問題が確認された場合にはそれを是正する活動も強化しています。

さらに、カーボンニュートラルの取り組みを通じた気候変動の問題解決への貢献と、サプライチェーンを含めた人権に対する取り組みの両立、すなわち「Just Transition（公正な移行）」の実現が今後、大変重要になると思います。脱炭素の推進に繋がる新たなビジネスや雇用を創出して、持続的な経済成長に結びつけるとともに、社会的・経済的弱者への配慮や新たな弱者を生み出さない取り組みが不可欠であると考えています。

また、日産はこれまでの取り組みについて、もっと社会へ発信していくことが必要だと考えていますし、今後は情報開示にも力を入れていきます。多様性を重んじている日産が、人権尊重の取り組みを積極的に進めるのは当然のことです。今後、より一層注力していきます。



目次	CEOメッセージ	CSOメッセージ	カーボンニュートラル/ 新型コロナウイルスへの対応	取締役会議長 メッセージ	日産のサステナビリティ	日産のSDGsへの貢献	ルノー・日産自動車・ 三菱自動車のアライアンス
環境	社会性	ガバナンス	ESGデータ集	編集方針	TCFD対照表	GRI内容索引	投資家向け索引

全社を挙げてダイバーシティを推進

Q. 昨今、多様性についての課題も国内外で取り沙汰されていますが、多様性は、日産にとってどんな意味があるのでしょうか？

多様性は日産らしさの一部ですし、アライアンスで培ってきた日産の強みそのものだと思います。昨年、私はコーポレートパーパスを検討する中で、多くの人と意見交換をしました。そこで、日産らしさとは、自由闊達に物事を進められる風土であり、ジェンダーに限らず、多様な文化を持つ人が集まることによって、イ

ノベータティブな考えが生み出されることなのだ」と再認識しました。

日産は、多様性豊かな従業員が尊重し合える環境の実現を目指しています。どこを切っても、誰もが同じことを答えるような、金太郎飴のような会社にはしたくないのです。異なる意見がぶつかり合うからこそ、イノベーションが生まれるし、無限の可能性が広がります。そうしたことが実現できるように従業員の力を引き出すことこそが、経営層の仕事だと思います。

従業員と家族の健康を守りつつ、事業の継続性を確保

Q. 新型コロナウイルス感染症の流行も全世界が共通で抱える社会課題の1つですが、日産にどのようなインパクトを与え、日産はどう対応してきたのでしょうか？

はじめに、新型コロナウイルス感染症によりお亡くなりになった方々へ謹んでお悔やみを申し上げますとともに、罹患された方へお見舞いを申し上げます。また、日々ご尽力くださっている医療従事者の方々や、政府、自治体関係者の皆さまに心よりお礼申し上げます。

新型コロナウイルスの感染拡大により、私たちは、仕事と生活の両面で変化を余儀なくされました。日産が最優先に取り組んできたのは、従業員とその家族

の健康と安全を維持し、確保することです。そして、地域社会の健康や安全の確保に貢献し、ディーラーやお客さまへの包括的な支援なども積極的に行っています。

また、新型コロナウイルスの感染拡大以降、事業運営やお客さまへの接し方にも変化が求められています。デジタル販売の取り組みや、在宅勤務などの新しい仕事の仕方も推進しています。在宅勤務では、今まで通勤に使っていた時間を家族との時間に充てることで、ワーク・ライフバランスが向上するなど、その有効性も証明されています。

目次	CEOメッセージ	CSOメッセージ	カーボンニュートラル/ 新型コロナウイルスへの対応	取締役会議長 メッセージ	日産のサステナビリティ	日産のSDGsへの貢献	ルノー・日産自動車・ 三菱自動車のアライアンス
環境	社会性	ガバナンス	ESGデータ集	編集方針	TCFD対照表	GRI内容索引	投資家向け索引

将来に向けてお客さまニーズに応える

Q. 事業を取り巻く環境と社会ニーズの変化が今後も予想されますが、どのように社会に価値を創出していきたいですか？

事業構造改革「NISSAN NEXT」は2年目を迎えました。「NISSAN NEXT」は、この先10年の持続可能な成長に向けて、事業を回復させることを目指しています。過度な販売台数を追わず、販売の質を向上させる取り組みは、着実に成果を上げています。私は「NISSAN NEXT」が将来の成長の基盤になると確信しています。

私が一番喜びを感じるの、お客さまが日産のクルマに満足され、従業員が会社のやっていることに意義を感じるということです。この2つを見聞きできたときは、本当にこの仕事をやっていて良かったなと思います。

2021年2月に、福島県の浜通り、浪江町・双葉町・南相馬市の3自治体とフォーアールエナジーや地元の販売会社を含む8企業とで、「福島県浜通り地域における新しいモビリティを活用したまちづくり連携協定」を締結しました。これは日産にとって、持続的な街づくりについて学ぶ貴重な機会となっています。また、自動運転で街を走ることができるよう、街そのものを設計し直すことを視野に入れて議論し、実証実験も進めています。そうした地に足の着いた活動を通じて、社会に貢献し、事業の可能性も見出していくことが、日産の目指す姿です。

日産には、環境やEVにいち早く取り組んできた豊かな経験と実績があります。日産は、今後もお客さまのニーズを呼び起こす、独自性にあふれる革新的なクルマやサービスを創造し、社会やステークホルダーに高い価値を提供し続ける会社でありたいと考えています。

